

施策：	19	人権尊重のまちづくり	財務コード	01030107-09-199
基本事業：	01	人権教育及び啓発の促進	担当部	総務部
基本事業の成果指標	この1年間に相手の人権を侵害するような言動や行動をした市民の割合		担当課	人権政策・男女共同参画課
			担当係	人権・同和政策担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	昭和58年度 ~		新規・継続	継続	会計区分			実施計画	
1. 対象 (誰、何に対して事業を行うのか)			2. 手段 (事務事業の内容、やり方、手順)						
市民			人権擁護委員と協力し、以下の啓発事業や相談事業等を実施するもの。 【啓発事業】お互いを尊重しあえる社会の実現をめざした人権啓発事業 (人権の花運動、人権教室、街頭啓発(6月・12月)、パープルプラザフェスティバルでの啓発活動等) 筑紫地域人権啓発活動活性化事業(講演会)を実施。 【相談事業】人権擁護委員が実施する常設人権相談(法務局で毎週月・水・金、9時から16時対応)および特設人権相談(市役所で月1回、10時から15時対応)の支援を行う。 各相談に関する情報提供を広報紙やホームページで行うほか、相談会場の確保や準備といった支援を実施。 【補助事業】筑紫地区の人権擁護委員で構成される「筑紫人権擁護委員協議会」の取り組み(人権教室の開催、人権作文集「ねがい」の作成、委員の研修等)に対する補助金(約35万円)を交付。						
3. 意図 (この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)									
あらゆる人権問題を市民一人ひとりが、自らの課題、地域の課題、全市民の課題として認識し、お互いを尊重して支えあうことができている。									
4. 成果 (簡易評価は未記入)									
成果指標名称		単位	05年度実績	06年度実績	07年度当初	08年度要求	09年度計画	10年度計画	目標
人権擁護委員の市民認知度		%	4.5	5.5	6	7			8
5. コスト									
事業費		計	千円	602	909	624	750		
		国	千円	0	0	0	0		
		県	千円	41	315	92	177		
		地方債	千円	0	0	0	0		
		その他	千円	0	0	0	0		
一般	千円	561	594	532	573				
正職員人工数		人工	0.25	0.25	0.25	0.25			
正職員人件費		千円	1,954	2,006	2,095				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	2,556	2,915	2,719	750			
6. 成果状況及びコメント (簡易評価は未記入)									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない(停滞・低下)	【状況】令和6年度の特設人権相談の相談件数は、11件であった。 ・令和6年度の人権の花運動については、山家小で実施。 ・令和6年度の人権擁護委員の市民認知度は、5.5%であった。 【課題】令和4年度より成果指標を「人権擁護委員の認知度」に変更。 ・人権擁護委員の活動について、継続的かつ効果的な周知方法を検討する必要がある。 ・相談件数がR6は11件とR5よりも増加した。毎年相談件数が少ないことから、R6から人権相談に関する全戸回覧を行った。回覧を見ての問い合わせも増え、ある程度の効果があったものと考えられる。また、								
7. 評価及びコメント (簡易評価は未記入)									
対象動向	維持	類似事業	なし	・人権擁護委員の取り組みをさらに市民に知らせ、認知度を上げていく必要がある。					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	あり						
成果向上余地	中程度								
8. 改善改革案 (簡易評価は必要な場合のみ記入)			改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了		
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用(維持/事業終了の場合は記入する必要なし)									
・街頭啓発活動や人権の花運動、パープルプラザフェスティバルでの人権啓発事業等における啓発・周知活動の充実 ・法務局が市に委託して実施する地域人権啓発活動活性化事業(講演会等)や市が実施する市民懇談会でのチラシ配布など ・相談しやすい環境づくり(会場等)									
事業開始背景及び現在の環境変化(市民・議会等の要望)			備考・特記事項 or 進行管理欄						
本市では、筑紫人権擁護委員協議会が組織された昭和58年度頃から人権擁護委員と連携した人権相談や啓発活動を行っている。									

施策：	19	人権尊重のまちづくり	財務コード	01090610-02-588
基本事業：	01	人権教育及び啓発の促進	担当部	教育部
基本事業の成果指標	この1年間に相手の人権を侵害するような言動や行動をした市民の割合		担当課	教育政策課
			担当係	人権・同和教育担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	昭和57年度 ~		新規・継続	継続	会計区分			実施計画		
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）							
すべての市民			【事業内容】 同和問題啓発強調月間（7月1日～7月31日）にかかると組 ・同和問題講演会（開催日：7月20日・講師：森山沾一さん） ・看板・懸垂幕・のぼりによる啓発活動 ・街頭啓発活動（開催日：7月12日 7月1日実施予定も荒天のため中止） ・各課毎職員研修の実施 ・公用車啓発ステッカー貼付・職員啓発ワッペン着用・窓口卓上啓発ミニのぼり設置 ・ポスター標語等の募集 ・窓口リーフレット・啓発ティッシュ配布 ・各種講演会、研修会等への参加（7/20県講演会参加人数：14人） 上記以外の取組 ・人権・同和問題講演会（開催日：2月22日・講師：久保敬さん） ・広報ちくしのへの特集記事の掲載（隔月6回）							
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）			同和問題の解決を、市民が自らの課題として捉え、差別を許さない意識の徹底を図るための各種啓発事業を集中的に実施することで、差別を許さない社会づくりの構築が進んでいる。							
4. 成果（簡易評価は未記入）										
成果指標名称		単位	05年度 実績	06年度 実績	07年度 当初	08年度 要求	09年度 計画	10年度 計画	目標	
講演会参加者数		人	490	1,175	800	800			800	
講演会の内容に満足した人の割合（参加者アンケート）		%	77.8	80.3	100	100			100	
5. コスト										
事業費		計	千円	2,704	2,857	3,299	3,270			
		国	千円	0	0	0	0			
		県	千円	673	716	1,056	1,052			
		地方債	千円	0	0	0	0			
		その他	千円	0	0	0	0			
一般		千円	2,031	2,141	2,243	2,218				
正職員人工数		人工	0.6	0.6	0.6					
正職員人件費		千円	4,689	4,814	5,029					
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	7,393	7,671	8,328	3,270				
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）										
あがっている	【状況】 参加者数 同和問題講演会（7月） 643人・人権・同和問題講演会（2月） 532人 【計1175人】 内容に満足した割合 同和問題講演会（7月） 72.5%・人権・同和問題講演会（2月） 90.7% 【計80.3%】 【原因】 講演会を予定どおり年2回開催することができたため、参加者数は目標に到達した。 また、講演会の内容に満足した人の割合は、2月の講演会の評価が高く、昨年度よりも高くなった。									
どちらかといえばあがっている										
あがっていない（停滞・低下）										
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）										
対象動向	維持	類似事業	なし	現在もなお差別事象は発生し続けており、同和問題講演会や街頭啓発などは市民の同和問題に対する正しい認識と理解を深めるために重要な役割を果たしている。同和問題をはじめとする人権問題の啓発は、人権尊重社会の醸成のため、涵養の精神で繰り返し粘り強く行っていくことが必要不可欠である。						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし							
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし							
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	なし							
成果向上余地	中程度									
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）						改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）										
H30年度から始めた「番号案内表示機付広報広告TVモニター」や、R元年度から始めた「わが街NAVI」を活用しながら、同和問題をはじめとする様々な人権問題の解決のための啓発の取組の周知徹底を継続していく。										
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）					備考・特記事項 or 進行管理欄					
同和問題の早急な解決は行政の責務であるとともに、国民的課題である。福岡県下の市町村では「同和对策事業特別措置法」が施行された7月を同和問題啓発強調月間とし、街頭啓発、講演会、啓発看板等の設置などの集中的な啓発事業を実施している。事業開始時期・・・昭和57年					平成28年に「部落差別解消推進法」平成31年に「県部落差別解消推進条例」令和2年3月に「筑紫野市部落差別解消推進条例」が施行され、部落差別の解消のための国や地方公共団体の責務が明記され、教育や啓発の取り組みの充実が求められている。令和元年度に事務事業名変更（旧：同和問題啓発強調月間事業）					

事務事業名 筑紫野市同和教育研究会運営費補助事業

出力日：令和08年03月16日

キーコード：704

施策：	19	人権尊重のまちづくり	財務コード	01090610-04-590
基本事業：	01	人権教育及び啓発の促進	担当部	教育部
基本事業の成果指標	この1年間に相手の人権を侵害するような言動や行動をした市民の割合		担当課	教育政策課
			担当係	人権・同和教育担当



事務事業が貢献すべき成果

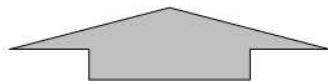
計画年度	昭和44年度 ~		新規・継続	継続	会計区分			実施計画	
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
筑紫野市同和教育研究会			筑紫野市同和教育研究会に対して補助金を交付することによって、その活動を支援し、以下の事業を実施するもの。 人権・同和教育に関わる調査研究・市と一体となった人権・同和教育、啓発活動の推進、学習会・講演会等の開催 ・指導者研修会（開催日：6月3日・参加者106人） ・同和教育学習会（第1回：11/1・第2回：11/9・第3回：11/12・第4回：11/20・第5回：11/28） ・人権・同和教育問題講演会（市と共催）開催日：2/22・参加者532人 部会、分科会を設けそれぞれの特色に応じた教育・啓発活動の推進 ・中学校ブロック分科会、就学前教育部会、「障がい」児教育分科会、高校分科会、学校推進部会、行政部会、市民部会 諸活動の円滑な推進のため、下記の会議を定期的に開催 ・運営委員会、代表者会、学校代表者会、ブロック代表者会						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）									
筑紫野市同和教育研究会の運営を支援し、部落差別をはじめとするあらゆる差別からの解放を目的とする人権・同和教育の実践を通じ、すべての市民が自分らしく生き生きと暮らせる人権尊重社会の実現をめざす。									
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	目標
			実績	実績	当初	要求	計画	計画	
会員数		人	965	996	950	950			950
同和教育学習会の参加者数		人	451	651	360	360			360
5. コスト									
事業費		計	千円	4,050	4,050	4,050	4,050		
		国	千円	0	0	0	0		
		県	千円	0	0	0	0		
		地方債	千円	0	0	0	0		
		その他	千円	0	0	0	0		
一般		千円	4,050	4,050	4,050	4,050			
正職員人工数		人工	0.05	0.05	0.05				
正職員人件費		千円	391	401	419				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	4,441	4,451	4,469	4,050			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている		【状況】会員数 R5年度：965人 R6年度：996人 学習会参加者数 R5年度：451人 R6年度：651人 (第1回：239人、第2回：39人、第3回：167人、第4回：69人、第5回：137人)							
どちらかといえばあがっている		【原因】継続的な取組と併せて学習会の回数を3回から5回に増やしたため、会員数と学習会参加者数は昨年度より増加した。							
あがっていない(停滞・低下)									
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	なし						
成果向上余地	中程度								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）									
改善方向性			維持	見直し	廃止	事業終了			
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
学習会の参加者拡大の観点からも、行政職員の市同研加入拡大の取り組みは重要であり、引き続き所属長等を通じて参加する意義等を伝える等、参加促進の取組を続けていく必要がある。									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）			備考・特記事項 or 進行管理欄						
1963年に筑紫野町同研が町内教員有志によって結成。1969年の特措法施行後、同和問題解決は行政の責務であるとの位置づけから市同研活動支援のための事業が展開された。現在、当市の人権・同和教育にとって不可欠な存在であり、同和問題のみならず就学前教育・障害児教育などの充実にも寄与している。			新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から事業規模を縮小した影響で、令和4年度の補助金額は405万から385万に変更となった。						

事務事業名 同和教育推進 5 中学校区事業補助事業

出力日：令和08年03月16日

キーコード：705

施策：	19	人権尊重のまちづくり	財務コード	01090610-05-591
基本事業：	01	人権教育及び啓発の促進	担当部	教育部
基本事業の成果指標	この1年間に相手の人権を侵害するような言動や行動をした市民の割合		担当課	教育政策課
			担当係	人権・同和教育担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成17年度 ~	新規・継続	継続	会計区分	一般会計	実施計画
1. 対象 (誰、何に対して事業を行うのか)		2. 手段 (事務事業の内容、やり方、手順)				
5 中学校区推進委員会		中学校区の教職員で構成する推進委員会「5 中学校区推進委員会」が以下の事業を実施することに対して、補助金を交付するもの。				
3. 意図 (この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)		【事業内容】 人権・同和問題学習の推進及び充実に関すること 児童・生徒の学力と進路の保障に関すること 校区住民との交流・啓発に関すること 各中学校ブロックにおける、小中連携の推進と充実に関すること その他、人権・同和教育推進に関すること				
各中学校ブロックにおいて一人ひとりを大切に人権・同和教育推進の充実を図るとともに、各ブロック間の地域格差を解消し、児童・生徒及び教職員の人権尊重意識を高める。		【補助金交付の流れ】 交付申請 (ヒアリング) 交付決定 補助金交付 事業実施 実績報告 (ヒアリング)				

4. 成果 (簡易評価は未記入)								
成果指標名称	単位	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	目標
研修会等の参加者数 (児童・生徒を除く、5中学校区の合計)	人	実績 1,920	実績 2,058	当初 2,000	要求 2,000	計画	計画	2,000

5. コスト								
事業費	計	千円	1,200	1,200	1,200	1,200		
	国	千円	0	0	0	0		
	県	千円	0	0	0	0		
	地方債	千円	0	0	0	0		
	その他	千円	0	0	0	0		
正職員人工数	人工	0.04	0.04	0.04				
正職員人件費	千円	313	321	335				
トータルコスト(事業費 + 正職員人件費)	千円	1,513	1,521	1,535	1,200			

6. 成果状況及びコメント (簡易評価は未記入)								
あがっている	【状況】 R5年度：1920人 R6年度：2058人							
どちらかといえばあがっている	【原因】 各中学校区ごとに工夫しながら研修会等を行った結果、参加者数が138人増加した。							
あがっていない (停滞・低下)								

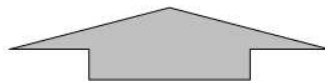
7. 評価及びコメント (簡易評価は未記入)								
対象動向	維持	類似事業	なし	校区内の特性を活かした地域内小・中学校が連携・協働した取り組みであり、筑紫野市がめざす「人権尊重のまちづくり」につながるものである。各中学校ブロック間の格差是正にも役立っている。				
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし					
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし					
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	なし					
成果向上余地	中程度							

8. 改善改革案 (簡易評価は必要な場合のみ記入)				改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用 (維持/事業終了の場合は記入する必要なし)								

参加者の増加の要因は、それぞれのブロックにおいて工夫を凝らしながら研修会等を実施したためであり、今後も引き続き補助金交付要領やヒアリングを活用しながら、教師等の学習機会の保障を促していく。	
事業開始背景及び現在の環境変化 (市民・議会等の要望)	備考・特記事項 or 進行管理欄

事業については、平成16年度まで筑山中校区並びに二日市中校区において「基本的人権尊重の精神を高め、一人ひとりを大切に教育を推進する」という観点から事業を推進してきた。平成17年度より、この取組を5中学校区に広げ、地域、家庭、学校が一体となった総合的人権教育連携事業として発展させた。	平成26年度より成果指標となる研修会等の参加者数を各ブロックから詳細に報告してもらうようにした。
---	--

施策：	19	人権尊重のまちづくり	財務コード	01090610-03-589
基本事業：	01	人権教育及び啓発の促進	担当部	教育部
基本事業の成果指標	この1年間に相手の人権を侵害するような言動や行動をした市民の割合		担当課	教育政策課
			担当係	人権・同和教育



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	昭和56年度 ~	新規・継続	継続	会計区分	一般会計	実施計画
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）		2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
すべての市民及び、関係機関・団体の構成員		○すべての市民を対象とした行政区毎の人権問題市民懇談会の開催 行政区の推進委員と市民、団体職員、市の係長以上の職員が実行委員ならびに担当者として企画、運営を行っている。（1～15班） 懇談会の内容（テーマ） R6実績：人権全般 20.6%・高齢者の人権 19%・子どもの人権 15.9%・障がい者問題 11.1%・同和問題 6.3%・災害に関わる問題 6.3%・性的少数者 3.2%・ネット関係 1.6%・その他 15.9%など ○市内の機関・団体を対象とした人権問題研修会の開催（16・17班） 各団体の代表者と実行委員・担当者が話し合いテーマを決めて、それぞれの実情に応じた研修を実施している。 実行委員・担当者の研修を実施し、資質の向上を図っている。				
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）						
市民の人権意識の向上を図り、筑紫野市がめざす「誰もが安心して暮らせる人権尊重のまちづくり」の実現をめざす。						

4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称	単位	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	目標	
		実績	実績	当初	要求	計画	計画		
市民懇談会へ参加した市民の人数	人	1,849	1,985	3,500	3,500			3,500	
市民懇談会アンケート結果（良かった・まあ良かったと回答した参加者の割合）	%	90.5	94.7	95	95			95	

5. コスト									
事業費	計	千円	2,630	2,378	3,205	3,206			
	国	千円	0	0	0	0			
	県	千円	980	854	1,392	1,392			
	地方債	千円	0	0	0	0			
	その他	千円	0	0	0	0			
	一般	千円	1,650	1,524	1,813	1,814			
正職員人工数		人工	0.6	0.6	0.6				
正職員人件費		千円	4,689	4,814	5,029				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	7,319	7,192	8,234	3,206			

6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）	【状況】・参加した市民の数 R5年度：1849人 R6年度：1985人 ・アンケート結果 R5年度：90.5% R6年度：94.7% 【原因】行政区毎に創意工夫を行いながら取組を進めた結果、R6年度もすべての行政区（82行政区）で市民懇談会が実施された。また、参加人数とアンケート結果も昨年度より高くなった。								

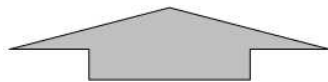
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし	H29年度の差別落書き事件を受け、同和問題をテーマにした懇談会を開催するよう取組を進めている。また、近年は市民懇談会参加者の高齢化、固定化が懸念されるため、より幅広い世代の参加者を増やす工夫が必要である。					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	あり						
成果向上余地	中程度								

8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）					改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									

引き続きコミュニティ連絡会や人権擁護委員等の関係団体との連携を深めながら円滑な業務運営に取り組み続けていく。									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）					備考・特記事項 or 進行管理欄				

同和問題をはじめとしたあらゆる人権問題の早期解決を図るため、各機関団体研修を行うとともに、各行政区において市民懇談会を開催し、市民一人ひとりの人権意識の高揚を図りながら人権尊重のまちづくりの実現をめざし市民啓発を進めている。昭和56年事業開始。					平成27年度より、「行政区人権問題啓発推進委員会育成助成金」事業（事業コード80000・キーコード1124）を本事業に統合する。				
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

施策：	19	人権尊重のまちづくり	財務コード	01090610-06-592
基本事業：	01	人権教育及び啓発の促進	担当部	教育部
基本事業の成果指標	この1年間に相手の人権を侵害するような言動や行動をした市民の割合		担当課	教育政策課
			担当係	人権・同和教育担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	昭和50年度 ~	新規・継続	継続	会計区分	一般会計	実施計画
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）		2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
すべての市民		人権・同和問題に関する啓発を広く市民に行うため、3種の啓発冊子の発刊を行うもの。「人権作文集くさび」以外の2誌は、有識者・教職員・行政職員・関係団体で構成する同和問題啓発資料編集員会議で審議、作成している。 【作成する啓発冊子】 解放への一歩 11月1日発刊（同和問題に特化した啓発冊子） 発行部数：44,200部（広報紙と同時配布） 人権問題特集号 12月1日発刊（様々な人権課題についての啓発冊子） 発行部数：44,700部（広報紙と同時配布） 人権作文集くさび 3月1日発刊（毎年小中高校生・市民から人権に関する作文・標語・ポスターを募集し、広く市民に周知する） 発行部数：10,000部（小・中学校PTA配布・市内公共施設に配置）				
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）						
人権問題に対する正しい認識と人権感覚豊かな市民の育成によって、人権が侵害されない市民生活ができるようになっていく。						

4. 成果（簡易評価は未記入）								
成果指標名称	単位	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	目標
発行部数（啓発冊子3種の合計）	部	実績 98,300	実績 98,900	当初 96,200	要求 96,200	計画	計画	98,000

5. コスト								
事業費	計	千円	2,129	2,268	2,722	2,717		
	国	千円	0	0	0	0		
	県	千円	1,026	1,108	1,360	1,358		
	地方債	千円	0	0	0	0		
	その他	千円	0	0	0	0		
正職員人工数	人工	0.5	0.5	0.5				
正職員人件費	千円	3,908	4,012	4,191				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)	千円	6,037	6,280	6,913	2,717			

6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）								
あがっている	【状況】啓発冊子3種類の必要部数として合計98,900部を発行している。							
どちらかといえばあがっている	【課題】今後世帯数の増加に伴い必要部数が増える可能性がある。							
あがっていない（停滞・低下）								

7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）								
対象動向	増加	類似事業	なし	啓発冊子を編集するに当たって資料編集員会を組織して行っているが、各部から推薦を受けた行政職員も編集員として関わっており、識字活動への参画などととも職員全体の人権・同和問題に関する認識を高める場として重要な役割を果たしている。平成27年度から啓発冊子にアンケート及び感想欄を設け、良かったと思う記事や感想などを寄せてもらい、今後の編集等に生かすように努めている。				
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし					
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし					
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	なし					
成果向上余地	中程度							

8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）				改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
--------------------------	--	--	--	-------	----	-----	----	------

改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）								
今後については、レイアウト等を工夫するとともに、図やグラフ、イラスト等を活用しながら、読みやすい内容作りに努める。				・R01年度より「解放への一歩」と「人権問題特集号」にQRコードを使用したアンケート方法を追加した。 ・「くさび」については、H29年度から人権・同和問題講演会で朗読された3作品をHPに掲載した。（サーバー容量の問題で全作品の掲載は不可）				

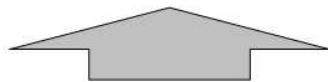
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）				備考・特記事項 or 進行管理欄				
人権・同和問題の早期解決を図るため、市民の人権・同和問題に対する正しい理解と認識を深めていくことを目的として開始。事業開始時期・・・昭和50年				アンケート回答数が少なく、アンケート結果を成果指標にすることは現時点では適当ではないが、講演会等を活用しながら回答数を増やしていけば、指標として活用できる可能性は高くなるものと考えられる。（R4年度から講演会時にアンケートを実施）				

事務事業名 人権尊重のまちづくりサポーター養成講座事業

出力日：令和08年03月16日

キーコード：1019

施策：	19	人権尊重のまちづくり	財務コード	01090610-07-593
基本事業：	01	人権教育及び啓発の促進	担当部	教育部
基本事業の 成果指標	この1年間に相手の人権を侵害するような言動や行動をした市民の割合		担当課	教育政策課
			担当係	人権・同和教育担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	昭和55年度 ~		新規・継続	継続	会計区分			実施計画	
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
市民（受講生）			同和問題をはじめとするあらゆる人権問題が自分自身や日常生活に密接に関係していることへの理解を促し、市民啓発の担い手になり得る人材の育成をめざすため、年間5回（館外研修を含む）の連続講座を開催するもの。 【令和2年度の講座内容】 全体テーマ：私たちのくらしと人権～人権の裾野を広げて～ 第1回（7月）「人権感覚をアップデートしませんか」参加者41人 第2回（9月）「童謡・唱歌から人権問題を探って」参加者33人 第3回（11月）館外研修（熊本地震震災ミュージアム）参加者32人 第4回（1月）「同和問題の現状と差別されない権利」参加者26人 第5回（2月）「参加者の学びを共有するために」参加者25人						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）			講座の受講者が、講座の学習活動を通して、部落差別をはじめとする様々な差別の存在に気づき、地域での実践活動を通して人権尊重思想を暮らしの中に生かし、一人ひとりの豊かな生活や幸せな未来を築くことに向けて、地域社会における人権啓発の核となっている。						
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	05年度 実績	06年度 実績	07年度 当初	08年度 要求	09年度 計画	10年度 計画	目標
講座参加者数（全5回の参加延べ人数）		人	147	157	150	150			190
新たに講座を受講した人数		人	14	21	15	15			15
5. コスト									
事業費		計	千円	104	132	169	156		
		国	千円	0	0	0	0		
		県	千円	9	7	23	23		
		地方債	千円	0	0	0	0		
		その他 一般	千円	0	0	0	0		
正職員人工数		人工	0.2	0.2	0.2				
正職員人件費		千円	1,563	1,605	1,676				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	1,667	1,737	1,845	156			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		【状況】 参加者数 R5年度:147人 R6年度:157人 新たに講座を受講した人数 R5年度:14人 R6年度:21人 【原因】 継続的な取組により、参加人数と新規受講者数が昨年度よりも高くなった。							
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	あり	平成26年度から、従来の「女性問題の講座」から「人権講座」へと名称を変更し、女性に関する問題だけでなくより幅広い人権・同和問題をテーマとして開催している。これにあわせて受講生募集方法を見直し、市内小・中学校保護者に案内チラシを配布し受講者の拡大を図っている。					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	なし						
成果向上余地	小さい								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）									
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）					改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
引き続き生涯学習課所管の「みんなで学ぶ人権・同和问题講座」と相互に受講案内を行うなど、連携した取組を継続していく。									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）					備考・特記事項 or 進行管理欄				
女性問題の学習を通して、地域社会における指導者を育成することを目的に昭和55年から開始。H30年度より、人権が大切にされる地域づくりの担い手になって欲しいという観点から「人権尊重のまちづくりサポーター養成講座」に名称変更した。					H30年度より、成果指標として「新たに講座を受講した人数」を追加し、事業成果や課題分析等を行うようにした。 R5年度より事務事業名を「人権尊重のまちづくりサポーター養成講座事業」に変更した。				

事務事業名 同和地区老人医療費助成事業

出力日：令和08年03月16日

キーコード：197

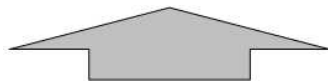
施策：	19	人権尊重のまちづくり	財務コード	01030103-02-166
基本事業：	02	同和問題の解決	担当部	市民生活部
基本事業の 成果指標	同和地区住民の失業率		担当課	国保年金課
			担当係	医療年金担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	～		新規・継続	継続	会計区分			実施計画	
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
筑紫野市同和対策に係る個人給付の事業に関する給付要綱第1条に規定する昭和17年4月1日以前生れの者			医療機関を受診したときの自己負担額の80パーセントに相当する額を助成する。 <実施要件> 昭和17年4月1日以前生れの人で、申請者およびその世帯員の課税額（市県民税額）が生活保護基準表の算定課税額未満の人 <所得制限> 申請者の世帯の市県民税額の合計額が、申請者の家族構成に基づく生活保護費支給額の1.0倍の額を所得として算出する市県民税額未満 <助成期間> 7月から翌年度6月まで						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）									
筑紫野市同和対策に係る個人給付の事業に関する給付要綱に基づき、同和地区住民の福祉の増進及び適切な医療の確保を図る。									
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	05年度 実績	06年度 実績	07年度 当初	08年度 要求	09年度 計画	10年度 計画	目標
一人あたりの扶助費		円	60,238	81,479	72,727	72,727			
5. コスト									
事業費		計	千円	3,011	3,585	3,400	3,000		
		国	千円	0	0	0	0		
		県	千円	0	0	0	0		
		地方債	千円	0	0	0	0		
		その他 一般	千円	0	0	0	0		
正職員人工数		人工	0.2	0.2	0.2				
正職員人件費		千円	1,563	1,605	1,676				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	4,574	5,190	5,076	3,000			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		<状況> 医療費の助成により、対象者の経済的負担は軽減されている。 <原因> 医療技術の進歩等により医療費は増加し、同時に高齢化による入院患者も増加した。 <課題> 今後さらに高齢化が進み、対象者は減少するが入院患者も増加すると考えられるため、医療費増加見込み。							
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	なし						
成果向上余地	小さい								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）					改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）									
「筑紫野市同和対策に係る個人給付の事業に関する実施要綱」に基づき、昭和47年5月から適切な医療の確保を図るために医療費の扶助を主体目的に老人医療費の助成をしている。 平成19年度から助成内容は医療費の自己負担分と入院時の食事代の80パーセントとした。					備考・特記事項 or 進行管理欄				

施策：	19	人権尊重のまちづくり	財務コード	01030107-04-196
基本事業：	02	同和問題の解決	担当部	総務部
基本事業の 成果指標	同和地区住民の失業率		担当課	人権政策・男女共同参画課
			担当係	人権・同和政策



事務事業が貢献すべき成果

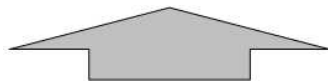
計画年度	昭和63年度 ~		新規・継続	継続	会計区分	一般会計	実施計画		
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
・受講希望者 3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか） ・新卒就職希望者や未就労者ならびに転職希望者が、公務員等の安定的な仕事に就けるように支援を行う。			・公務員試験対策を中心として、講座を5～9月の間に41回開催。 ・時間帯は18：00～20：00、週3回（月、水、金）実施。 ・会場は永岡隣保館。 ・講師は福岡南地区高等学校人権教育研究会からの派遣にて対応。 ・受講生の定員は5名程度。 ・受講料は無料。受講生のテキスト代は自費。 ・一次試験合格者に対しては、面接対策としての就職対策講座を実施している。 ・公務員教養試験だけでなく民間企業等の就職試験対策にも対応できるように、令和5年度から「SPI3」の判断推理、数的推理、社会、時事問題を中心とした内容に変更した。 ・本事業は太宰府市・那珂川市との共同事業である。太宰府市及び那珂川市は講師謝金、講師テキスト代の負担、受講生募集、当直担当者の人的派遣等を行っている。						
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	05年度 実績	06年度 実績	07年度 当初	08年度 要求	09年度 計画	10年度 計画	目標
セミナー受講者数		人	1	2	3	2			10
セミナー受講者の就職決定者数		人	0	0	1	1			1
5. コスト									
事業費		計	千円	396	381	399	399		
		国	千円	0	0	0	0		
		県	千円	0	0	0	0		
		地方債	千円	0	0	0	0		
		その他	千円	0	0	0	0		
一般	千円	396	381	399	399				
正職員人工数		人工	0.4	0.4	0.4	0.4			
正職員人件費		千円	3,126	3,209	3,352				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	3,522	3,590	3,751	399			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）	（状況等）・令和元年度にこれまで講師派遣を依頼していた業者より、派遣中止の申入れあり。 ・若年層の就労の現状等を把握しながら、本事業の実施内容、実施手法等について関係課等と協議を行い、令和3年度からセミナーを再開した。 ・令和6年度は、受講生2名のうち合格者、就職者はいなかった。 （課題等）・受講生が年々少なくなっている状況である。 ・セミナー内容が、新規に就職を希望する若い人向けであるが、30歳～50歳代の中途で就職を希望する人の学習にはなじまないことから、その就職対策を検討する必要がある。								
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	あり	・隣保館就労担当者との連携はもとより、関係機関・団体との連携により、就職試験対策だけでなく、就労のための資格取得に向けた学習環境も整えていく必要がある。 ・開催時期は、年度初めに募集し、その後最短の5月上旬に開始しているが、公務員や民間企業の試験時期が年々早まっているため、試験対策が間に合わないという課題がある。 ・新規就職希望者と中途就職希望者のニーズが異なることから、セミナーのあり方についても今後検討する必要がある。					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地あり						
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	あり						
成果向上余地	中程度								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）									
改善方向性 維持 見直し 廃止 事業終了 改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
・R6まで継続して受講した受講者の1人は、就職には結びついていないが、就労に関する情報提供等をする等ことにより、資格取得を目指して新たな進路を開拓しようとしている。セミナーでの学習を通じて、別の目標を持つことができ、就職の選択の幅を広げることができたと考えられる。				・就労希望者の現状や就労ニーズの把握を行いながら、必要に応じた事業再編を行っていく。					
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）				備考・特記事項 or 進行管理欄					
同対審答申の主旨を踏まえ、「安定就労のための学習機会の提供」を目的として本事業はS63年度から実施している。H26年度からは対象を地区住民だけでなく、市民全体に拡充するとともに、名称を「人権施策就労促進セミナー」に変更してきた。				・R5年度から受講生のテキスト代は自費とした。 ・R5年度から公務員教養試験だけでなく民間企業等の就職試験対策にも対応できるように、「SPI3」の判断推理、数的推理、社会、時事問題を中心とした内容に変更した。 ・今後、共同主催の太宰府市、那珂川市と協議しながら進めてい					

事務事業名 自動車運転技能取得訓練費助成事業

出力日：令和08年03月16日

キーコード：250

施策：	19	人権尊重のまちづくり	財務コード	01030107-06-197
基本事業：	02	同和問題の解決	担当部	総務部
基本事業の 成果指標	同和地区住民の失業率		担当課	人権政策・男女共同参画課
			担当係	人権・同和政策



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	昭和42年度 ~	新規・継続	継続	会計区分	一般会計	実施計画
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）		2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
・市内同和地区住民		<ul style="list-style-type: none"> ・自動車学校の入学金・教習料金・適性検査料・夜間料金を助成する。 ・筑紫野市同和对策事業に係わる個人給付の事業に関する実施要綱に基づき実施する。（所得制限あり） ・具体的な手続きとしては、申請書の提出 申請者との面談（就労意欲等の確認） 助成の可否決定 入校・助成となっている。 ・本事業は昭和42年から就労対策として実施されており、平成14年度から1/3の個人負担を導入し、平成19年度から1/2の個人負担としている。 				
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）						
・同和对策審議会答申の趣旨を踏まえ、市内同和地区住民の雇用の促進を図り、経済的に劣悪な状態の改善に資するため、同和地区住民の就労対策として、自動車運転免許を取得させる。						

4. 成果（簡易評価は未記入）								
成果指標名称	単位	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	目標
		実績	実績	当初	要求	計画	計画	
・自動車運転免許取得者数	人	0	0	1	1			3
免許取得者のうち就職した人数	人	0	0	1	1			3

5. コスト								
事業費	計	千円	0	0	165	185		
	国	千円	0	0	0	0		
	県	千円	0	0	0	0		
	地方債	千円	0	0	0	0		
	その他	千円	0	0	0	0		
	一般	千円	0	0	165	185		
正職員人工数	人工	0.2	0.2	0.2	0.2			
正職員人件費	千円	1,563	1,605	1,676				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)	千円	1,563	1,605	1,841	185			

6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）								
あがっている	（状況）・令和6年度は、制度の利用がなかった。							
どちらかといえばあがっている	・当該事業については、申請時に個人面談を実施しており、その中で本人の意欲等を十分確認したうえで助成を行っている。							
あがっていない（停滞・低下）	（課題）・各隣保館を通じて、制度の周知徹底、対象者の掘り起こしを行っているが更なる周知が必要である。							
	・就労のために自動車運転免許を取得する制度であり、所得制限など条件が厳しいため、申込者がいない状況が続いている。地域の就労状況や運転免許の取得状況、対象者のニーズ等の把握に努めているが、条件面で折り合わない部分が多い。そのため成果指標としては停滞している。							

7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）								
対象動向	維持	類似事業	なし	助成にかかる条件が厳しくなるにつれて申請者は減少しているものの、免許の取得が就職に大きく貢献している状況がある。				
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし					
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし					
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	あり					
成果向上余地	小さい							

8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）				改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
--------------------------	--	--	--	-------	----	-----	----	------

改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）

<ul style="list-style-type: none"> ・隣保館職員による制度の周知徹底を行い、対象者の掘り起こしを行っていく。 ・事業の目的が地区住民の失業率の減少であることから、隣保館就労担当者及び関係機関団体との連携により、本事業を含めた就労に向けた継続的な支援を図る。 	
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）	備考・特記事項 or 進行管理欄

<p>同対審答申の主旨を踏まえ、様々な行政施策を実施してきたが、同和地区住民の就労状況は依然として厳しい状況にある。安定した就労への支援のため、要綱に定める基準による生活困窮世帯のみ、運転免許取得費用の助成をしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和42年度から全額助成していたが、H14年度から1/3、H19年度から1/2の自己負担とした。 ・H25年度より所得制限が生保基準の1.3倍から1.0倍になった。 ・年度によって申込者が変動するため、単年度による評価が困難である。
---	---

事務事業名 同和団体助成事業

出力日：令和08年03月16日

キーコード：251

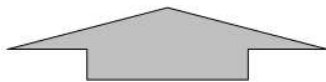
施策：	19	人権尊重のまちづくり	財務コード	01030107-08-198
基本事業：	02	同和問題の解決	担当部	総務部
基本事業の 成果指標	同和地区住民の失業率		担当課	人権政策・男女共同参画課
			担当係	人権・同和政策



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	昭和41年度 ~		新規・継続	継続	会計区分	一般会計	実施計画		
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
<ul style="list-style-type: none"> 部落解放同盟筑紫地区協議会 全日本同和会筑紫地区協議会 福岡県地域人権運動連合会 			<ul style="list-style-type: none"> 補助金の交付 同和対策行政を効果的に実施するために運動団体や地元の協力は不可欠であり、同時に地区住民自らが行う自主解放の努力を行政として支援している。地元では地区住民の自立のための学習・研修・相談的事業を推進しており、そのための運動団体への財政援助を行っている。 						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）									
<ul style="list-style-type: none"> 同和問題をはじめとするあらゆる人権問題を早期に解決するために、関係団体との協働により人権・同和行政を総合的に推進する。 									
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	05年度 実績	06年度 実績	07年度 当初	08年度 要求	09年度 計画	10年度 計画	目標
補助金額（代替指標）		千円	6,640	6,639	6,640	6,640			6,640
5. コスト									
事業費		計	千円	6,639	6,639	6,640	6,640		
		国	千円	0	0	0	0		
		県	千円	0	0	0	0		
		地方債	千円	0	0	0	0		
		その他	千円	0	0	0	0		
一般	千円	6,639	6,639	6,640	6,640				
正職員人工数		人工	0.25	0.25	0.25	0.25			
正職員人件費		千円	1,954	2,006	2,095				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	8,593	8,645	8,735	6,640			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている	地区住民が同和問題解決のため自主的に行う多様な取り組みを促すとともに、行政施策との連携を密にすることにより、差別のない人権尊重のまちづくりを目指す本市の目標達成に貢献している。								
どちらかといえばあがっている	また、各団体における相談体制により、行政の相談業務を側面的にカバーするなど、地区住民の課題解決のために協働で取り組むことができている。								
あがっていない (停滞・低下)									
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	なし						
成果向上余地	中程度								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）			改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了		
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
<p>事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）</p> <ul style="list-style-type: none"> 同和問題の解決に向けて、同和行政を効果的に実施すると同時に、自主解放支援のための補助として実施。 平成13年度で地対財特法が失効したため平成14年度から逐次同和対策事業の見直しを行っている。 									
<p>備考・特記事項 or 進行管理欄</p> <p>筑紫地区人権・同和行政推進協議会において、3年ごとに助成金についての見直しが行われている。（次回予定：令和7年度）</p>									

施策：	19	人権尊重のまちづくり	財務コード	01090103-52-483
基本事業：	02	同和問題の解決	担当部	教育部
基本事業の 成果指標	同和地区住民の失業率		担当課	学校教育課
			担当係	教育指導担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	~	新規・継続	継続	会計区分		実施計画
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）		2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
同和地区の児童生徒をはじめとした、学習支援を要する児童生徒		中学生については、教科担任等と連携し、5教科を中心に個に応じた指導を行い指導方法の工夫など授業改善に資する。 小学生については、当該小学校教職員と連携しながら、国語・算数を中心に指導し、授業改善に資する。 小中学校教員と連携を密にし、教材の準備（教材・教具づくり）、学習の評価を行う。 家庭と連携し、家庭学習の定着を図るための手立てを個に応じて指導する。 連絡会を定例的に開催し、状況確認及び情報交換を行う。				
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）						
学習支援を要する児童生徒の学力を向上させる。						

4. 成果（簡易評価は未記入）								
成果指標名称	単位	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	目標
		実績	実績	当初	要求	計画	計画	
促進指導における年間延べ児童生徒数	人	4,694	3,636	5,000	5,000			5,000
促進指導における児童生徒の参加率	%	53.8	43.9	60	60			60

5. コスト								
事業費	計	千円	10,373	12,795	13,062	13,436		
	国	千円	0	0	0	0		
	県	千円	0	0	0	0		
	地方債	千円	0	0	0	0		
	その他	千円	0	0	0	0		
	一般	千円	10,373	12,795	13,062	13,436		
正職員人工数	人工		0.3	0.3	0.3			
正職員人件費	千円		2,345	2,407	2,514			
トータルコスト(事業費+正職員人件費)	千円		12,718	15,202	15,576	13,436		

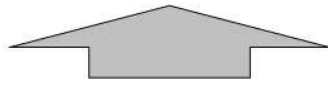
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）								
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）	3名の指導員が、児童生徒の個々の状況を踏まえた学習支援を行うことができている。児童生徒のみならず、地域と連携し、家庭支援を行うこともできている。一方で、家庭状況等、様々な課題を抱える児童生徒も増加傾向にあり、指導員が積極的に支援行っているものの継続的に当事業に参加することが難しい状況もある。							

7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）								
対象動向	維持	類似事業	なし	意欲や集中力を高めることは、促進指導だけで達成できるものではなく、家庭や地域との連携が大きな課題である。				
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし					
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし					
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	あり					
成果向上余地	中程度							

8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）				改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）								

事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）		備考・特記事項 or 進行管理欄						
平成3年度に、学力向上で進学率を高め、同和問題解決における国・県の方針にもとづき、当市でも県職員を割愛により市職員として迎えるかたちで事業開始された事業である。平成23年度からは市費での嘱託職員を雇用。令和2年度から会計年度任用職員へ移行。								

施策：	19	人権尊重のまちづくり	財務コード	01090611-01-595
基本事業：	02	同和問題の解決	担当部	教育部
基本事業の 成果指標	同和地区住民の失業率		担当課	生涯学習課
			担当係	生涯学習・青少年担当



事務事業が貢献すべき成果

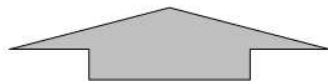
計画年度	昭和53年度 ~		新規・継続	継続	会計区分		実施計画		
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
学級生（同和地区住民・周辺地域を含めた市内在住者） 担当者（行政職員・教職員・保育士・ボランティア）			各地区で月2回、夜間2時間程度の学習会を開催する。学習会は基本的に担当者が指導・支援するが、必要に応じて専門技術を有する講師を招く。（美咲大学、岡田解放学級、永岡識字学級、京町識字通信）						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）			【学習内容】 文字の習得を中心とした学習 機能的識字を実現するための学習（パソコン教室等） 差別の実態を明らかにするための家庭訪問 生きがいつくり、趣味文化教養のための学習 生活習慣の改善のための学習（スポーツ、料理等） 学級生と担当者の交流を図る館外学習（人権に係る施設等での学習）						
非識字者に対して文字の学習を行なうとともに、文字を仕事や生活に活用できないという機能的非識字を解消するための学習を行なう。また、差別によって奪われた生きがいつくりや文化趣味活動の機会を得られるよう支援を行なう。担当者は地区住民との直接の交流から差別問題解決の主体者としての意識を育む。									
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	05年度 実績	06年度 実績	07年度 当初	08年度 要求	09年度 計画	10年度 計画	目標
参加延べ人数		人	2,305	2,579	3,000	3,000			3,000
5. コスト									
事業費		計	千円	3,707	4,409	5,742	6,029		
		国	千円	0	0	0	0		
		県	千円	246	255	288	288		
		地方債	千円	0	0	0	0		
		その他 一般	千円	0	0	0	0		
正職員人工数		人工	0.4	0.4	0.4				
正職員人件費		千円	3,126	3,209	3,352				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	6,833	7,618	9,094	6,029			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		令和6年度は、新型コロナウイルス感染症が終息し、年間を通じて学習会を開催することができたため、参加延べ人数が増加した。							
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	なし						
成果向上余地	中程度								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）			改善方向性		維持 見直し 廃止 事業終了				
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
長年の取り組みを継承しつつ、機能的非識字の解決と、生活習慣の改善、生きがいつくりや文化教養に関する支援を中心とした学習を推進し、引き続き人権尊重の理念を学ぶなど、事業内容について検討を重ねる。									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）			備考・特記事項 or 進行管理欄						
文字を学び文字を通して地域のおかれている立場を自覚し、真に人権尊重の理念を学びながら、部落差別から立ち上がり、差別をはねかえし、差別に負けず、自ら解放の主眼をみだし、部落解放の主体的力量を培い、もって部落解放に資することを目的として開設する。			・学級生の高齢化が進んでいる。 ・長年の取り組みにより非識字者は減少し、狭い意味での識字（文字の学習）を行なっているのは京町識字通信のみとなっている。						

事務事業名 少年期人権啓発事業

出力日：令和08年03月16日

キーコード：709

施策：	19	人権尊重のまちづくり	財務コード	01090611-02-596
基本事業：	02	同和問題の解決	担当部	教育部
基本事業の 成果指標	同和地区住民の失業率		担当課	生涯学習課
			担当係	生涯学習・青少年担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成21年度 ~	新規・継続	継続	会計区分		実施計画
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）		2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
市内在住の児童・生徒		子ども会において、教職員を講師として人権学習活動・体験学習活動等を実施する。				
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）		【活動の詳細】				
小中学生を対象とする人権啓発の推進		<ul style="list-style-type: none"> ・人種差別、障がい者差別、男女差別、部落差別等の学習（社会情勢やニュース等で取り上げられているものを題材とした学習） ・平和学習（戦争や原爆体験等を題材とした平和学習） ・高齢者との交流、介護体験（地域で引き継がれている技能・技術の体験） ・人権啓発の交流集会（地域住民や保護者等との人権に係る交流会） 				

4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称	単位	05年度 実績	06年度 実績	07年度 当初	08年度 要求	09年度 計画	10年度 計画	目標	
学習活動等に参加した子ども・教職員の人数	人	2,474	1,926	5,000	5,000			5,000	

5. コスト									
事業費	計	千円	2,036	2,036	2,037	2,037			
	国	千円	0	0	0	0			
	県	千円	703	703	703	703			
	地方債	千円	0	0	0	0			
	その他 一般	千円	0	0	0	0			
正職員人工数	人工	0.1	0.1	0.1					
正職員人件費	千円	782	802	838					
トータルコスト(事業費+正職員人件費)	千円	2,818	2,838	2,875	2,037				

6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）	少年期の人権啓発を継続して行い、差別を見抜き、許さない意志と実践力を持った子どもたちを育成できるよう推進していく。								

7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし	当該事業について、市内各子ども会に対し、積極的に周知し事業内容への理解を図り、推進する必要がある。					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	あり						
成果向上余地	中程度								

8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）					改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									

人権感覚を養い、差別を見抜き、許さない強い意志と実践力を持った子どもたちを育成することで、人権啓発の推進につながる事業であり、継続していく。									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）					備考・特記事項 or 進行管理欄				
福岡県人権・同和問題啓発事業費補助金交付要綱の規定に基づき実施するもの。平成21年度から一般対策事業として、市内在住の児童・生徒に対して、少年期の人権啓発の推進を目的に実施している。									

事務事業名 同和地区介護サービス事業

出力日：令和08年03月16日

キーコード：1067

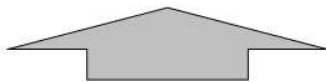
施策：	19	人権尊重のまちづくり	財務コード	01030102-27-158
基本事業：	02	同和問題の解決	担当部	健康福祉部
基本事業の 成果指標	同和地区住民の失業率		担当課	高齢者支援課
			担当係	介護保険担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	~		新規・継続	継続	会計区分	一般会計	実施計画		
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
同和地区住民で介護保険サービスを受給している被保険者のうち、給付対象となる申請者。			申請された被保険者が、所得等の基準において対象となるかどうか審査の後、サービス給付費のうち高額介護サービス費等を除いた一部負担額の70%を支給する。						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）									
利用者の費用負担を軽減する									
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	05年度 実績	06年度 実績	07年度 当初	08年度 要求	09年度 計画	10年度 計画	目標
給付額		千円	0	811	811	811			0
支給者数		人	0	3	3	3			0
5. コスト									
事業費		計	千円	0	811	1,338	2,077		
		国	千円	0	0	0	0		
		県	千円	0	0	0	0		
		地方債	千円	0	0	0	0		
		その他 一般	千円	0	811	1,338	2,077		
正職員人工数		人工	0.1	0.1	0.1				
正職員人件費		千円	782	802	838				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	782	1,613	2,176	2,077			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		令和5年度まで対象者が存在しなかったが、令和6年度より対象者が発生したため継続して実施する。							
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし	今後も引き続き対象者が発生することが見込まれるため事業の継続が必要である。					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	なし						
成果向上余地	中程度								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）				改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了	
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）		備考・特記事項 or 進行管理欄							
筑紫野市同和対策に係わる個人給付的の事業に関する実施要綱に基づき実施する。									

施策：	19	人権尊重のまちづくり	財務コード	01090611-03-597
基本事業：	02	同和問題の解決	担当部	教育部
基本事業の 成果指標	同和地区住民の失業率		担当課	生涯学習課
			担当係	生涯学習・青少年担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成26年度 ~	新規・継続	継続	会計区分		実施計画
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）		2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
歴史的又は社会的理由により生活環境等の安定向上を図る地域及びその周辺地域（以下「地域」という）の住民		地域住民が運営する7つの部（女性部、子ども会、老人部、成人男子部、青年部、子ども会育成会、各種学級）による組織的な教育活動に対して補助金を交付する。 教育活動の内容は、定例学習、健康学習、研修会、地域交流事業活動、野外活動、体験活動、日常的学習・活動、館外学習、地域活動等である。				
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）		各種学級の内容は、英会話、音楽、健康料理、ヨガ、健康体操、アートフラワー、手芸、生け花、盆栽等である。				
地域住民の自立に向けた教育活動を支援することにより、地域住民の生活の向上を図る。						

4. 成果（簡易評価は未記入）								
成果指標名称	単位	05年度 実績	06年度 実績	07年度 当初	08年度 要求	09年度 計画	10年度 計画	目標
学習会等への参加者数	人	16,893	18,081	20,000	20,000			20,000

5. コスト								
事業費	計	千円	3,826	3,953	4,032	4,032		
	国	千円	0	0	0	0		
	県	千円	0	0	0	0		
	地方債	千円	0	0	0	0		
	その他	千円	0	0	0	0		
一般	千円	3,826	3,953	4,032	4,032			
正職員人工数	人工	0.1	0.1	0.1				
正職員人件費	千円	782	802	838				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)	千円	4,608	4,755	4,870	4,032			

6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）								
あがっている	令和6年度の各部会の参加延べ人数（ ）内は令和5年度							
どちらかといえばあがっている	・女性部	874人（ 648人）			・各種学級	2,083人（ 1,836人）		
	・子ども会	6,852人（ 8,274人）			【合計】	18,081人（ 16,893人）		
	・老人部	2,572人（ 2,106人）						
	・成人男子部	3,972人（ 2,718人）						
あがっていない（停滞・低下）	・青年部	131人（ 38人）						
	・子ども会育成会	1,597人（ 1,273人）						

7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）			
対象動向	維持	類似事業	なし
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	なし
成果向上余地	中程度		

8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）		改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）						
重要な事業であるので、活動の見守り支援を継続する。						

事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）	備考・特記事項 or 進行管理欄
地域のおかれている立場を自覚し、真に人権尊重の理念を学びながら、部落差別から立ち上がり、差別をはねかえし、差別に負けず、自ら解放の主眼をみだし、部落解放の主体的力量を培い、もって部落解放に資することを目的として開始された。地域の状況に応じた取り組みを行っている。	平成26年度から、各部運営学級育成補助金の7つ「女性部、子ども会、老人部、成年、青年部、子ども会育成会、各種学級」を統合し、1つの事務事業とした。（1つの事業の中で、7つに区分している。）

施策：	19	人権尊重のまちづくり	財務コード	01040102-16-294
基本事業：	02	同和問題の解決	担当部	健康福祉部
基本事業の 成果指標	同和地区住民の失業率		担当課	健康推進課
			担当係	健康推進担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	昭和55年度 ~	新規・継続	継続	会計区分	一般会計	実施計画
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）		2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
同和地区およびその周辺地域の住民		定期的に健診を受けるとともに健康に関するさまざまな知識を習得し、生活習慣の改善につなげる。 市健診の受診勧奨、受けやすい体制づくり、事後フォロー 管理栄養士による健康・栄養教室（講話・調理実習） 歯科衛生士による歯科教室（講話・実技） 医師等による健康講話 運動教室 の事業は、各地区と協議し、必要に応じて3支部もしくは4支部 合同で行うなど開催方法等も工夫して実施している。 周辺地域住民も含めた事業については、の一部の事業から開始してい る。今後もテーマ等を考慮しながら、周辺地域を含めて取り組みを検討 していく。				
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）						
日常生活習慣の改善を図り、健康づくり～生活の質の向上を目指すことで、部落差別の結果としての生活実態が解消される。平成26年度より周辺地域住民も対象とした保健事業を展開していく。						

4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称	単位	05年度 実績	06年度 実績	07年度 当初	08年度 要求	09年度 計画	10年度 計画	目標	
延べ教室参加者数	人	558	925	925	925			635	
特定健診受診率	%	31.3	37.3	37.5	37.5			60	
5. コスト									
事業費	計	千円	96	93	304	304			
	国	千円			0	0			
	県	千円			0	0			
	地方債	千円			0	0			
	その他 一般	千円	96	93	304	304			
正職員人工数	人工	2.1	1.5	1	2.1				
正職員人件費	千円	16,412	12,035	8,381					
トータルコスト(事業費+正職員人件費)	千円	16,508	12,128	8,685	304				

6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）	<状況> 延べ教室参加者数は令和5年度より367人増加し925人となっている。特定健診受診率は令和5年度より6%増加し、37.3%で、市国保全体の特定健診受診率35.6%よりも高い受診率であった。 <原因> 延べ教室参加者数の増加は、新型コロナウイルス感染症の感染法上の位置づけが5類に移行したため、事業を予定通り実施できたことによるものである。特定健診受診率は、地区女性部の協力をいただきながら受診勧奨を行った効果が表れたと思われる。 <課題> こども栄養教室で朝食の大切さを反復学習しているため、積極的に取り組む姿がみられた。今後も継続していくことが大事である。								

7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	あり	健診の受診率を今後も維持・向上させていくことが必要。地区からは、特に子ども栄養教室や親と子の健康づくり学習会における栄養教室について保育所からのつながりを大切にして欲しいとの要望もあり、令和6年度は保育所経験のある市管理栄養士が京町・美咲における講師を担当した。					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	あり						
成果向上余地	中程度								

8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）					改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
--------------------------	--	--	--	--	-------	----	-----	----	------

改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
・健診対象者リストを活用し、毎年継続して健診を受診する人を増やします。 ・年に3回「保健師だより」を発行し、健康に関する情報を発信します。					・周辺住民に対して、教室案内のちらし配布を継続し、参加者の増加と交流の機会とします。 ・保護者会等と参加しやすい時期や興味・関心の高い内容についての検討を行います。				

事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）					備考・特記事項 or 進行管理欄				
同和地区における健康阻害要因の解消に向けて隣保館に保健師が配置され、保健事業を展開するために昭和55年頃から健康教室等が予算化されました。									

事務事業名 人権文化センター生活相談・支援事業

出力日：令和08年03月16日

キーコード：1322

施策：	19	人権尊重のまちづくり	財務コード	01030108-04-203
基本事業：	02	同和問題の解決	担当部	総務部
基本事業の 成果指標	同和地区住民の失業率		担当課	人権政策・男女共同参画課
			担当係	人権文化センター



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	昭和40年度 ~		新規・継続	継続	会計区分		実施計画			
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）							
各隣保館施設の地域住民			美咲・岡田・永岡・京町の各隣保館において、生活相談や健康相談、教育相談など生活に関する各種相談事業を実施するもの。 （基本的考え方） 身近な相談窓口として、さまざまな課題を有する人々の立場に立った相談を行うこと。 相談をとおして地域の課題や住民ニーズ等発見し対応するとともに、予防していくこと。 情報提供や訪問等の活動（アウトリーチ）による対象者の発見・支援とともに、適切に専門的機関や事業等に「つなぐ」などのコーディネートを行うこと。 継続的なフォローアップを行い、併せてNPOなどとの協働による、新たなネットワークづくりを進め、地域福祉の推進を図ること。							
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）										
地域住民の生活や健康に関する相談に応じることで、問題の解決や住民の自立を支援する。										
4. 成果（簡易評価は未記入）										
成果指標名称		単位	05年度 実績	06年度 実績	07年度 当初	08年度 要求	09年度 計画	10年度 計画	目標	
生活相談総件数		件	2,374	2,439	2,300	2,300			2,300	
5. コスト										
事業費		計	千円	31,564	44,125	45,247	49,052			
		国	千円	0	0	0	0			
		県	千円	24,795	24,795	24,795	24,795			
		地方債	千円	0	0	0	0			
		その他 一般	千円	6,769	19,330	20,452	24,257			
正職員人工数		人工	2.1	2	2.1	2.1				
正職員人件費		千円	16,412	16,046	17,600					
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	47,976	60,171	62,847	49,052				
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）										
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない (停滞・低下)		相談内容は、就労に関するもの、生活に関するもの、教育に関するもの等、多岐にわたっている。そのため、相談内容によっては関係課やハローワーク等と連携して問題の解決にあたっている。 本年度も来館や家庭訪問、電話等で個別に相談対応を行った。件数は昨年より増加している。								
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）										
対象動向	維持	類似事業	なし	相談事業は、正規職員・会計年度任用職員全員で対応していることから、相談者への適切な解決策を提示できるよう、職員のスキルアップを図っていく必要がある。 また、複雑・専門化する相談内容もあることから、業務を遂行するうえで他機関との連携は不可欠である。						
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし							
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし							
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	あり							
成果向上余地	中程度									
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）						改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）										
数年前から、2,000件を超える相談件数となっており、地域住民の自立と問題解決のために今後も実施していく必要がある事業であることから、更なる職員の資質向上や他機関との連携を図りながら、組織的に業務を遂行していく必要がある。										
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）						備考・特記事項 or 進行管理欄				
平成28年度に公布・施行された「部落差別の解消の推進に関する法律」において、地方公共団体の努力規定として、相談体制の充実を図ることが明記された。										

施策：	19	人権尊重のまちづくり	財務コード	01030108-05-204
基本事業：	02	同和問題の解決	担当部	総務部
基本事業の 成果指標	同和地区住民の失業率		担当課	人権政策・男女共同参画課
			担当係	人権文化センター



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	昭和59年度 ~	新規・継続	継続	会計区分		実施計画
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）		2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
各隣保館の地域住民、市民等		各隣保館（4館）における地域住民等の相互理解と交流を促進する事業を実施するもの。 <令和6年度開催実績> 【美咲】・第27回宝満川カヌー大会 in 美咲 開催日：9/29、参加人数：1000人（内、地域外950人） ・美咲カヌー教室 開催日：7/29 8/5 8/19 8/26 9/2 9/9 9/16 の計7回 参加人数：1,220人（内、地域外975人） 【岡田】・第24回オータムコンサート in おかだ 開催日：10/19、参加実数：100人（内、地域外85人） ・食育推進教室 開催日：中止、参加者数：0人（内、地域外0人） 【京町】・第37回京町子どもまつり （開催日：10/19、参加実数：446人（内、地域外406人）				
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）						
対象の地域に多くの方が訪れ、各種イベントに参加することで、地域内外の住民の交流や地域に対する理解が深まっている。						
4. 成果（簡易評価は未記入）						

成果指標名称	単位	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	目標
		実績	実績	当初	要求	計画	計画	
地域交流・啓発事業の参加人数（実人数）	人	2,347	2,766	3,000	3,000			3,000
地域外からの参加人数（実人数）	人	1,937	2,616	2,600	2,600			2,600

5. コスト									
事業費	計	千円	936	1,375	1,854	1,817			
	国	千円	0	0	0	0			
	県	千円	309	309	309	309			
	地方債	千円	0	0	0	0			
	その他	千円	0	0	0	0			
一般	千円	627	1,066	1,545	1,508				
正職員人工数	人工	1	1	1	1				
正職員人件費	千円	7,815	8,023	8,381					
トータルコスト(事業費+正職員人件費)	千円	8,751	9,398	10,235	1,817				

6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている	【状況】A「地域交流・啓発事業の参加人数（実人数）」・B「地域外からの参加人数（実人数）」 A（R05：2,347人 R06：2,766人）B（R05：1,937人 R06：2,616人）								
どちらかといえばあがっている	【要因】本年度は規模を縮小せず、通年通り実施できた。								
あがっていない（停滞・低下）									

7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	なし	どの地域でも高齢化等によるイベントの企画・運営の担い手不足が顕著となってきたことから、地域住民（若手）の主体性を育む取り組みを地元支部と検討していきたい。					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	あり						
成果向上余地	中程度								

8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）					改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									

事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）									
備考・特記事項 or 進行管理欄									

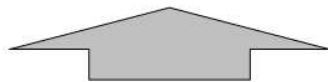
人権・同和問題をはじめ、環境、平和といった様々な問題を地域住民や市民等が共に交流し考える機会を設け、効果的な啓発や課題解決につなげることを目的として、地域が主体となって昭和59年度から京町、平成10年度から美咲、平成11年度から岡田、平成21年度から永岡にて事業が開始された。									
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事務事業名 人権文化センター地域福祉事業

出力日：令和08年03月16日

キーコード：1324

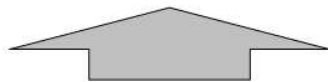
施策：	19	人権尊重のまちづくり	財務コード	01030108-06-205
基本事業：	02	同和問題の解決	担当部	総務部
基本事業の 成果指標	同和地区住民の失業率		担当課	人権政策・男女共同参画課
			担当係	人権文化センター



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成12年度 ~		新規・継続	継続	会計区分	一般会計	実施計画																																																																																								
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）																																																																																												
各隣保館の地域住民			各隣保館の老人いこいの家にて毎日各種デイサービスを行う。 日常生活訓練 ・日常生活動作（食事・更衣・移動など） ・長生きがい教室（認知症予防）等 社会適心訓練 ・あいあい教室（アイパッドを使った認知症予防や介護予防など）等 創作・軽作業 ・寄せ植え教室 ・手芸 等 更正相談 ・医療、福祉相談 ・在宅訪問 等 生きがい対策 ・高齢者一日研修 等																																																																																												
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）			4. 成果（簡易評価は未記入）																																																																																												
地域の実情に合わせた各種デイサービスを行うことにより、地域における様々な生活上の課題の解決を図る。			<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">成果指標名称</th> <th rowspan="2">単位</th> <th>05年度</th> <th>06年度</th> <th>07年度</th> <th>08年度</th> <th>09年度</th> <th>10年度</th> <th rowspan="2">目標</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>当初</th> <th>要求</th> <th>計画</th> <th>計画</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>デイサービス事業参加者人数</td> <td>人数</td> <td>714</td> <td>5,383</td> <td>1,150</td> <td>2,500</td> <td></td> <td></td> <td>1,200</td> </tr> <tr> <td>戸別訪問件数</td> <td>件数</td> <td>611</td> <td>611</td> <td>500</td> <td>500</td> <td></td> <td></td> <td>500</td> </tr> </tbody> </table>						成果指標名称	単位	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	目標	実績	実績	当初	要求	計画	計画	デイサービス事業参加者人数	人数	714	5,383	1,150	2,500			1,200	戸別訪問件数	件数	611	611	500	500			500																																																						
成果指標名称	単位	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	目標																																																																																							
		実績	実績	当初	要求	計画	計画																																																																																								
デイサービス事業参加者人数	人数	714	5,383	1,150	2,500			1,200																																																																																							
戸別訪問件数	件数	611	611	500	500			500																																																																																							
5. コスト			<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事業費</th> <th rowspan="2">計</th> <th rowspan="2">千円</th> <th>05年度</th> <th>06年度</th> <th>07年度</th> <th>08年度</th> <th>09年度</th> <th>10年度</th> </tr> <tr> <th>実績</th> <th>実績</th> <th>当初</th> <th>要求</th> <th>計画</th> <th>計画</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>国</td> <td>千円</td> <td>16,043</td> <td>19,590</td> <td>21,891</td> <td>22,536</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>県</td> <td>千円</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>地方債</td> <td>千円</td> <td>3,573</td> <td>3,573</td> <td>3,573</td> <td>3,573</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>その他</td> <td>千円</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>一般</td> <td>千円</td> <td>12,470</td> <td>16,017</td> <td>18,318</td> <td>18,963</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>正職員人工数</td> <td>人工</td> <td></td> <td>0.9</td> <td>0.9</td> <td>0.9</td> <td>0.9</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>正職員人件費</td> <td>千円</td> <td></td> <td>7,034</td> <td>7,221</td> <td>7,543</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>トータルコスト(事業費+正職員人件費)</td> <td>千円</td> <td></td> <td>23,077</td> <td>26,811</td> <td>29,434</td> <td>22,536</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						事業費	計	千円	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	実績	実績	当初	要求	計画	計画		国	千円	16,043	19,590	21,891	22,536				県	千円	0	0	0	0				地方債	千円	3,573	3,573	3,573	3,573				その他	千円	0	0	0	0				一般	千円	12,470	16,017	18,318	18,963			正職員人工数	人工		0.9	0.9	0.9	0.9			正職員人件費	千円		7,034	7,221	7,543				トータルコスト(事業費+正職員人件費)	千円		23,077	26,811	29,434	22,536		
事業費	計	千円	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度																																																																																							
			実績	実績	当初	要求	計画	計画																																																																																							
	国	千円	16,043	19,590	21,891	22,536																																																																																									
	県	千円	0	0	0	0																																																																																									
	地方債	千円	3,573	3,573	3,573	3,573																																																																																									
	その他	千円	0	0	0	0																																																																																									
	一般	千円	12,470	16,017	18,318	18,963																																																																																									
正職員人工数	人工		0.9	0.9	0.9	0.9																																																																																									
正職員人件費	千円		7,034	7,221	7,543																																																																																										
トータルコスト(事業費+正職員人件費)	千円		23,077	26,811	29,434	22,536																																																																																									
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）			<p>あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）</p> <p>家庭に引きこもりがちな高齢者に対して隣保館（いこいの家）に来館することを促し、各種事業を行うことで、心身状態の維持・向上が図られ、要介護状態・認知症の予防につながっている。 新型コロナウイルス等の感染防止対策や熱中症対策等を図りながら、事業内容を検討しながら実施した。</p>																																																																																												
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）			<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象動向</th> <th>維持</th> <th>類似事業</th> <th>なし</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>手段効率化余地</td> <td>なし</td> <td>コスト削減余地</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>公的関与</td> <td>妥当性がある</td> <td>受益者負担</td> <td>余地なし</td> </tr> <tr> <td>上位貢献度</td> <td>影響度は中</td> <td>業務推進課題</td> <td>あり</td> </tr> <tr> <td>成果向上余地</td> <td>中程度</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>高齢化などで老人いこいの家に来られない高齢者等が増えている。また、新型コロナウイルス等の感染防止対策や熱中症対策等を講じながら、細心の注意をもって本事業を実施することが、新たな課題対策として求められるようになった。</p>						対象動向	維持	類似事業	なし	手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし	公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし	上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	あり	成果向上余地	中程度																																																																					
対象動向	維持	類似事業	なし																																																																																												
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし																																																																																												
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし																																																																																												
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	あり																																																																																												
成果向上余地	中程度																																																																																														
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）			改善方向性 維持 見直し 廃止 事業終了																																																																																												
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）			<p>戸別訪問等を増やし生活状況を把握をしつつ必要な支援を提案していく。また、感染防止対策としてバイタルチェックなどの対策を充実させていく。</p>																																																																																												
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）			備考・特記事項 or 進行管理欄																																																																																												
平成9年度に改正された隣保館設置運営要綱にて隣保館デイサービス事業が創設されたことに伴い、本市においては平成12年度より事業を開始する。			<p>部落差別の解消の推進に関する法律（平成28年12月施行） 福岡県部落差別の解消の推進に関する条例（平成31年3月施行） 筑紫野市部落差別の解消の推進に関する条例（令和2年3月施行）</p>																																																																																												

施策：	19	人権尊重のまちづくり	財務コード	01020113-05-070
基本事業：	03	ジェンダー平等の推進	担当部	総務部
基本事業の成果指標	家庭内の仕事を夫と妻が共同して分担していると思う市民の割合 福岡県子育て・介護応援宣言企業に登録している市内事業所の登録件数 審議会などの女性委員の割合 女性が人権侵害を受けた割合		担当課	人権政策・男女共同参画課
			担当係	男女共同参画担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成13年度 ~	新規・継続	継続	会計区分		実施計画
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）		2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
女性（相談内容により男性）		女性が抱えるさまざまな問題や悩みの相談窓口として、市役所本庁及び生涯学習センターに設置している男女共同推進センターの相談室にて、女性相談員による総合相談事業及び専門的相談である女性弁護士による法律相談事業を実施するもの。				
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）		(1)女性相談員による随時の総合相談事業（面接相談、電話による相談） 女性相談員による総合相談 月曜日～金曜日 9:00～16:30				
女性のさまざまな相談に応じることで、問題の解決や女性の自立を支援する。		(2)専門的相談事業（面接相談） 女性弁護士による法律相談 第2・4火曜日 13:00～16:00（一人30分）（2週間前からの予約制）				

4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称	単位	05年度実績	06年度実績	07年度当初	08年度要求	09年度計画	10年度計画	目標	
男女共同推進センター相談室への相談案件数	件	995	952	1,000	1,000			1,000	
新規の相談件数	件	470	450	450	450			450	

5. コスト									
事業費	計	千円	5,574	7,021	7,024	7,393			
	国	千円	0	0	0	0			
	県	千円	0	0	0	0			
	地方債	千円	0	0	0	0			
	その他一般	千円	5,574	7,021	7,024	7,393			
正職員人工数	人工	0.4	0.4	0.4	0.4				
正職員人件費	千円	3,126	3,209	3,352					
トータルコスト(事業費+正職員人件費)	千円	8,700	10,230	10,376	7,393				

6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）	令和6年度の相談案件数952件（内新規450）の内訳は、総合相談877と法律相談75。相談案件数、新規相談件数ともに高止まりしている。 相談内容は、DVをはじめ夫婦関係や親子関係、人間関係、本人の精神的な問題など複雑に絡みあうものが多く、相談内容に応じて庁内外関係機関と連携して問題の解決にあっている。1回の相談では解決しない複雑な問題に対しては継続的な相談により問題解決策を提示し支援している。広報周知活動に加え、本庁に相談室が移転以降、他課からの繋ぎもされている。月に2日は本庁以外の相談室でも相談を受け相談者が安心して相談できる環境整備に努めている。								

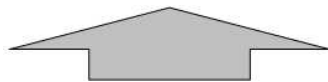
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	あり	類似事業には、「女性に対するあらゆる暴力の根絶事業」で実施している「ちくし女性ホットライン」がある。					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	あり						
成果向上余地	大きい								

8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）									
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）					改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了

令和5年度から相談員2名体制（週5と週3）とし、相談体制の充実を図った。相談業務の継続性や業務平準化のため、令和6年度に週4の2名体制へ変更した。複雑・多様化する相談状況を注視しながら、今後もより良い在り方について引き続き検討していく。	令和6年4月「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」が施行。各課既存事業の中で対応をしているところであるが、法に基づく支援体制の整理が必要である（市町村の努力義務である女性相談支援員の配置については未配置）。
--	---

事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）	備考・特記事項 or 進行管理欄
社会情勢の変化に伴う女性相談に関するニーズの高まりを踏まえ、平成13年度から相談事業を実施している。近年では、男性に対するDVやセクハラも課題となっており、市民の人権尊重に関する認識を高めるとともに、暴力防止のための広報・啓発活動や被害者支援を継続していかなければならない。	

施策：	19	人権尊重のまちづくり	財務コード	01020113-08-071
基本事業：	03	ジェンダー平等の推進	担当部	総務部
基本事業の成果指標	家庭内の仕事を夫と妻が共同して分担していると思う市民の割合 福岡県子育て・介護応援宣言企業に登録している市内事業所の登録件数 審議会などの女性委員の割合 女性が人権侵害を受けた割合		担当課	人権政策・男女共同参画課
			担当係	男女共同参画担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成13年度 ~	新規・継続	継続	会計区分		実施計画
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）		2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
市民		さまざまな場面における男女平等の必要性を考え、理解を深めることができるようなセミナー等を企画・実施する。				
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）		(1) 男女共同参画セミナー等の開催 男女共同参画セミナー事業、関係団体や関係課との共催事業、DV防止啓発セミナー、デートDV予防教室				
セミナー等を受講することによって、市民の男女共同参画に対する意識を高める。						
		(2) ちくしのフォーラムの活動に対する支援 行政区市民懇談会他、地域における男女共同参画の出前講座の周知及び開催支援				

4. 成果（簡易評価は未記入）								
成果指標名称	単位	05年度 実績	06年度 実績	07年度 当初	08年度 要求	09年度 計画	10年度 計画	目標
セミナーの内容に満足した参加者の割合（参加者アンケート）	%	98.5	97.8	96	96			95
男女共同参画セミナーの受講者数	人	1,094	1,787	1,000	1,000			1,000

5. コスト								
事業費	計	千円	181	193	389	389		
	国	千円	0	0	0	0		
	県	千円	0	0	0	0		
	地方債	千円	0	0	0	0		
	その他	千円	0	0	0	0		
一般	千円	181	193	389	389			
正職員人工数	人工	1	1	1	1			
正職員人件費	千円	7,815	8,023	8,381				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)	千円	7,996	8,216	8,770	389			

6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）								
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）	セミナーの参加者アンケート結果では、内容に満足したとする割合は97.8%であった。今年度もハローワークや福岡県よろず支援拠点等との共催により、少ない予算・職員数でも効果的な内容となるよう工夫を行い、開催した。これからも新たなニーズをつかみながら、さまざまな方法で啓発を行っていききたい。							

7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）								
対象動向	維持	類似事業	なし					
手段効率化余地	あり	コスト削減余地	なし					
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし					
上位貢献度	影響度は大	業務推進課題	あり					
成果向上余地	中程度							

8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）				改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）								

固定的性別役割分担意識は解消傾向にあるものの、アンコンシャス・バイアスの解消に向けた取組が求められており、さまざまな場面での継続した啓発が必要である。引き続き、プランに基づき、誰に対してどのような狙いで開催するか明確にしていく。受講者に対するアンケート等でニーズをつかみ、内容や周知方法、共催による開催等工夫をしながら効果的な講座としたい。								
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）				備考・特記事項 or 進行管理欄				

男女共同参画社会の推進を目的として平成13年度から実施している。令和6年度実施のまちづくりアンケートでは、家庭内の仕事を共同・分担していると思うと答えた市民は62%と増加傾向にあるものの、社会の中で男性が優遇されていると答えた市民は73%と高い数値を示しており、継続した啓発が必要である。								
--	--	--	--	--	--	--	--	--

事務事業名 女性に対するあらゆる暴力の根絶事業

出力日：令和08年03月16日

キーコード：1188

施策：	19	人権尊重のまちづくり	財務コード	01020113-12-072
基本事業：	03	ジェンダー平等の推進	担当部	総務部
基本事業の成果指標	家庭内の仕事を夫と妻が共同して分担していると思う市民の割合 福岡県子育て・介護応援宣言企業に登録している市内事業所の登録件数 審議会などの女性委員の割合 女性が人権侵害を受けた割合		担当課	人権政策・男女共同参画課
			担当係	男女共同参画担当



事務事業が貢献すべき成果

計画年度	平成13年度 ~		新規・継続	継続	会計区分		実施計画		
1. 対象（誰、何に対して事業を行うのか）			2. 手段（事務事業の内容、やり方、手順）						
・市民 ・DV、セクハラ等の人権侵害を受けている女性			女性に対するあらゆる暴力の根絶に向け、電話による相談や庁内の連携会議、被害者の保護による自立支援等を行うもの。						
3. 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）			(1) 電話相談事業「ちくし女性ホットライン」 ・女性に対する暴力（ドメスティック・バイオレンス、セクシュアル・ハラスメントなど）についての専用相談 ・筑紫地区5市の共同委託事業（NPO法人に委託） ・月、水～金 12:00～19:00 土 10:00～17:00 ・電話による相談が原則だが、ケースに応じて面接相談実施 (2) 庁内における関係課DV対策担当者会議を年1～2回開催 (3) 警察や県と連携しての被害者のシェルターへの緊急保護						
被害者が暴力から解放され、自立できる。									
4. 成果（簡易評価は未記入）									
成果指標名称		単位	05年度 実績	06年度 実績	07年度 当初	08年度 要求	09年度 計画	10年度 計画	目標
「ちくし女性ホットライン」への相談件数		件	58	87	60	70			50
DV被害者の保護件数		件	0	0	0	0			0
5. コスト									
事業費		計	千円	819	836	837	837		
		国	千円	0	0	0	0		
		県	千円	0	0	0	0		
		地方債	千円	0	0	0	0		
		その他 一般	千円	0	0	0	0		
正職員人工数		人工	0.1	0.1	0.1	0.1			
正職員人件費		千円	782	802	838				
トータルコスト(事業費+正職員人件費)		千円	1,601	1,638	1,675	837			
6. 成果状況及びコメント（簡易評価は未記入）									
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない（停滞・低下）		ちくし女性ホットラインでの相談件数233件のうち筑紫野市分については87件だった。相談は匿名でも受け付けているため、その中に筑紫野市分が含まれている可能性もある。全体の相談のうち土曜日に受けた割合は13.3%、また17時以降に受けた割合は13.3%あり、市の相談事業を補完する役割を担っている。また、市の総合相談における相談件数877件のうち、他機関への紹介は89件となっており、補完的役割を果たす一つの相談先として位置づけられる。							
7. 評価及びコメント（簡易評価は未記入）									
対象動向	維持	類似事業	あり	この事業は、「ちくし女性ホットライン」による相談事業が主な内容である。類似事業には、男女共同推進センターの総合相談事業があり、その中でもDVに関する相談も受け付けている。しかしながら、「ちくし女性ホットライン」は筑紫地区での共同事業となっており、当課の総合相談事業を補完しているものであるため、現時点での統合は難しい。					
手段効率化余地	なし	コスト削減余地	なし						
公的関与	妥当性がある	受益者負担	余地なし						
上位貢献度	影響度は中	業務推進課題	あり						
成果向上余地	中程度								
8. 改善改革案（簡易評価は必要な場合のみ記入）				改善方向性	維持	見直し	廃止	事業終了	
改革案/期待する成果/必要性/推進スケジュール/必要な費用（維持/事業終了の場合は記入する必要なし）									
筑紫地区での共同事業である「ちくし女性ホットライン」については、本市の男女共同推進センター相談室の補完的役割を果たす相談先としてさらなる周知をし、十分な活用を図るよう努める。									
事業開始背景及び現在の環境変化（市民・議会等の要望）				備考・特記事項 or 進行管理欄					
男女共同参画社会を実現する上で克服すべき重要な課題である女性に対する暴力の根絶に向けて、平成13年度から事業を開始。令和3年度に実施した市民意識調査結果でも女性に対する暴力の存在が明らかとなっており、引き続き本事業を継続する必要がある。				筑紫地区5市の共同委託事業である「ちくし女性ホットライン」はセーフティーネットの一つであるが、平成28年度から相談日と相談時間の見直しが図られた。このことにより当市の総合相談の補完性を高められた。					